

#将棋部、中四国で五連覇

去る十月十五日から三日間、第五十二回中四国学生将棋大会が松山大学御幸キャンパスで開催された。大会では団体戦と個人戦が行われたが、団体戦で、本学が中四国初の五連覇という偉業を達成した。

団体戦は、中四国の十八大学を三つのクラスに分けて、六校ずつで昇級を争うリーグ戦が、七人制で行われる。一回の対戦で四つ以上の勝数を挙げると勝点が一つ記録され、勝点が一番多い大学が優勝、昇級となる。勝点と同数の場合は勝数を較べ、勝数も同じ場合は、前回の順位が上位の大学が上位となる。

今大会のA級では、広島大、愛媛大、山口大の優勝争いとなったが、この三校が勝点4で並び、広島大と愛媛大が勝数23で並んだ激戦を広島大が制し、かつて広島修道大と広島大が達成した四連覇の記録を塗り替えた。

全国大会、通称王座戦は、十二月中に三重県四日市市で行われる予定。

(理学部化学科二年 金行良隆)



#畑本企画調査課長、三冠王に輝く



▲祝三冠王記念楯

第二十四回広島地区大学教職員軟式野球連盟リーグ戦(加盟チーム数は、広島修道大、広島経済大、近大、広島工大、広島電機大、広島大A・Bの七チーム)で、庶務部企画調査課の畑本勝課長が、首位打者、打点王、本塁打王の個人タイトル三冠王に輝いた。優勝チームは広島経済大。

惜しくも、チーム(広島大A)の優勝は逸したが、リーグ戦優勝の立て役者となった。

ちなみに広島大Bは第四位であった。表彰は、去る十月二十九日(土)同リーグ戦閉会式(八丁堀シャンテにて)の席上で行われた。また、同リーグ初の快挙に対して、デイリースポーツ社より記念の楯が授与された。

#東広島ガイドマップ刊行予定

学園都市づくり交流会議(議長、讃岐照夫東広島市長)では、新しく市民となる学生向けに東広島市のガイドマップを作成することになった。当面は約三千部発行される予定。

ガイドブックには、学生コンパに欠かせない宴会場やパチンコ店、カラオケボックスをはじめ、病院や銀行や図書館はもちろん、転居等の手続き場所や歴史遺産などが掲載されている。来年三月には発行される予定。

#創立記念イベント「寿」を開催

大学祭実行委員会では、去る十一月五日(土)に工学部幹線道路で広大創立記念イベント「寿」を開催した。

このイベントでは、DJ企画をはじめ、「3ON 3大会」、プロレス研究会による講演会やマツダ「モーター・ショー」、テレビゲーム大会などのさまざまな企画が、工学部の見事な紅葉のなか、盛大に行われた。

観客の感想には、「楽しくて良かった」という声もある一方、「少し寂しいようだ」という声もあった。我々もこの声を誠実に受けとめ、次回へとつなげていきたい。

最後に、今回のイベントに協力していただいた関係者のかたがた、特に工学部のかたがたに、この場を借りて心よりお礼申し上げます。

(第43回広島大学大学祭実行委員会委員長 松崎吉伸)

#創立記念イベント「寿」

ステージ企画「TALK&LIVE」

同じく十一月五日(土)、創立記念イベント「寿」のステージ企画に、新人歌手、中島優子さんのTALK&LIVEが催された。TALKは広大生を対象として集められたアンケート結果をもとに、広大生四名を交えて進行し、広大生の生活実態に中島さんの学生時代の話も交えながらの内容だった。

LIVEでは、シンガーソングライターらしく、自ら楽器を演奏しながら、詞をきかせる曲、テンポのいい曲と、全八曲を熱唱。「スマイル・フォー・ア・スマイル」の曲が始まると、観客は立ち上がったの拍手となり、感激した中島さんが涙をながすというハプニングもあって、観客も共感できるステージだった。

ただ、残念だったのは観客が少なかったこと。その要因のひとつには宣伝不足があるが、もう

ひとつには、学生の参加意欲のなさも原因だろう。私たち企画団体としては、今回の経験をもとによりよい行事を催せるよう、日々活動していく必要があると考える。

(体育会総務主務 友岡信明)

#東雲祭を終えて

「1994―未来への挑戦―東雲よ永遠に」というテーマを掲げ、第三十五回の東雲祭が開催された。

十一月十一日(金)は、午後一時半から東雲祭特別企画「東雲自己点検シリーズⅡ第一弾に向けてⅡ」と題する全員参加の討論会や前夜祭が催された。

十二日(土)と十三日(日)には、東雲で行う最後の大学祭ということもあり、伝統の「学部長杯」、「美の祭典」の演劇に加え、後夜祭の花火等も行われ、すばらしいものとなった。

来年は西条に移るが、この東雲祭を通して、何を西条に持っていかを学教の一人ひとりが感じたことだろう。

数多くの人々のご協力により成功を収めることができ、感謝の念に堪えません。ありがとうございました。

(第35回東雲祭実行委員長 松田晃樹)

#第二十二回広島大学霞地区実験動物慰霊法要がいとまれる

去る十一月十六日(木)午後三時から、中区寺町の徳応寺で、霞地区実験動物慰霊法要がいとまられた。

法要には、調枝医学部長、杉中歯学部部長、長坂歯学部附属病院長をはじめ、田原動物実験施設長、歯学部の前田動物委員長、原医研の伊藤放射線照射動物実験施設長など教職員と学生、合わせて約百三十名が参列し、医学の教育・研究のために供せられた動物の慰霊を祈念した。